

# 東冷蔵庫棟一新で冷凍品拡販

## 生鮮流通フォーラム開催

### 福岡魚市場小林取締役ら解説



今日は福岡魚市場をおたずねして、小林一浩取締役と、早水浩司顧問のお二人にお伺いたします。

時々の業界を取り巻くタイムリーな話題を提供している「生鮮流通フォーラム」(パーソナル情報システム(株)主催)の最新回である第37回が8日、「生鮮業界の物流問題」をテーマとしてウェ

「生鮮業界の物流問題」をテーマとしてウェ  
ブセミナー形式で開かれた。水産卸会社の株福岡魚市場が「水産市場にお

ける機能強化の取組み」で話したインタビュー録画が放映される中、小林一浩取締役は進化する技術を裏付けとした「冷凍品の拡販」を力ぎに挙げた。

福岡魚市場が拠点を置く福岡市中央卸売市場鮮魚市場(長浜鮮魚市場)は、2021年度までに

インタビュー  
録画に出  
演した福岡  
魚市場の小  
林取締役と  
早水顧問  
……  
主要施設で  
ある卸棟や  
仲卸棟の建  
て替えを完  
了。東冷蔵  
庫棟の移転  
・建て替え  
工事に、今  
後取り掛か  
ることにな  
っている。

小林取締役は「容積が1万3000トと今の冷蔵庫より2000ト減少するものの、自動倉庫部をなくすことにより稼働率は上がる。1・5倍は入るのではないかと紹介。冷蔵庫と凍結庫の一体型複合施設として整備し、「冷蔵庫には珍しいセミ超低温(マイナス35度C)の温度帯を設ける予定。鮮魚を瞬間凍結できる」と述べ、冷凍品の提供機能の増強によって輸出促進が期待できるうえ、高まる消費者のニーズも満足できるなどと語った。

情報システム部分については早水浩司顧問が説明。港湾に立地して産地機能を併せ持ち、近隣にある数十の漁協の水揚げを束ねてきた長浜鮮魚市場の性格から、各漁協にデータで水揚げ結果を配信するシステムを約30年前から運用してきたことに言及。「われわれのフ

オーマツト(データ書式)が20年前には西日本全域に広がった」などと成り立ちを話した。

基調講演では、流通経路の矢野裕見流通情報学部長が、農産物を中心に据えて「食品業界の物流が抱える課題と今後の動向」で話した。ドラ

イバー不足と非効率な物流、制度改正などに揺れる物流業界の今を「当たり前が大きく崩れつつある危機的状況。物流全体を見直す改革の必要がある」と警告。特に長距離輸送ありきで成り立つ生鮮食品を扱う卸売市場は「現行物流の幹線部分を結節点をつくりながらいかに束ねていくかが重要」と、解決の方向性について話した。